



創立148年

石積っ子

教育目標 **さいごまでやりぬく子 からだをきたえる子 もとめて学ぶ子 ともを大切に**する子

坂本小だより 令和4年 7月号

児童数538名 7/1

坂本小HP <http://www.otsu.ed.jp/skmt/>

【校長 上島 憲一】

『3年ぶりに…』 ～表現するということの素晴らしさと大切さ～

7月を待たずに異例すくしの梅雨明けで各地で真夏を思わせる暑さが続いています。前月号でもお伝えしましたが、マスクの着脱場面を考えさせるなど感染防止対策と熱中症防止対策の二刀流の指導を続けています。子どもたち自身でも的確に判断して、マスクの着脱や水分補給を行うなど自分の体調に合わせた行動できるように育てほしいと願っています。

そんな中、延期していた音楽会がリハーサル参観とともに終わりました。暑さ対策は大変でしたが、各学級・学年が一丸となって熱心に取り組んできた行事だけあって収穫も大きいものとなりました。また、音楽会前日のリハーサル参観では、お家の方々から子どもたちへの励ましや賞賛の声をたくさんいただくことができました。ありがとうございました。子どもたちにとって大きなエネルギーになったことに違いありません。

子どもたちが見せてくれた素晴らしい姿に対し、私自身は何の役にも立っていませんが、子どもたちの歌声や演奏する姿にとっても感激しました。そして坂本小学校という素晴らしい集団の一員でいられることを心から嬉しく、そしてちょっぴり誇らしく思いました。

学力を語る上での重要な要素に表現力というものがあります。自分の思いや考え、学んだことを伝える力ですが、今回の音楽会で子どもたちは、歌うことや演奏すること、さらには表情を含めた全身で聴き手に伝えようとしていました。伝えたい気持ちは自分を伸ばします。その姿を大変素晴らしく思いました。

そして、その表現力と共に感激したのが、指揮者や伴奏者である先生たちと子ども達との一体感でした。互いに信頼し合っている安心感が聴き手の心をつかみ、羨ましくも感じました。きっとこれから素晴らしい学年学級になっていくだろうと確信できました。



そして、子どもたちと先生たちが輝いて見えたこの音楽会が学級づくり学年づくりを進める上で大きな節目になったことは間違いありません。誰か強烈なリーダーに引っ張られるのではなく、全員が主役になってそれぞれの役割を果たし、フォローし合う質の高い集団づくりへの歩みを確実に進めていることを確信しました。

だからこそ大切なのは、一人ひとりの力を伸ばし、発揮させること。満足感を伴った集団に育つよう導くことです。坂本小に関わる我々大人が、皆同じ思いで子ども達に接し、認めてあげることができればきっと今回の大きな節目が素晴らしいゴールへとつながるはずです。



石積会（学校運営協議会）6.14より

先日、第1回目の学校運営協議会が開かれ、メンバーの方々からの意見も踏まえて今年度の学校経営構想が承認されました。また「創立150周年を機に、地域との連携を深めたい」をテーマに熟議も進めました。

以下に学校の様子を見ていただいた感想と熟議の記録を抜粋して紹介します。

【学校の様子】

・落ち着いて静かに学習している。・教室が明るく、絵も明るい。体操服や傘等も整えられている。・タブレットを使っていることは、今後社会に出てから役立つ。・登校しにくい子には温かい声をかけていただけることが有難い。・先生の声が大きく、子どもがしっかり聞いている。若い先生方のエネルギーを感じる。

【地域・PTA・学校の連携～150周年をきっかけにして、コロナで途切れてい地域とのつながりをもう一度深めたい～】

・学校のサカえもん、モトひめのキャラクターを坂本学区に広めたり、LINEスタンプ、着ぐるみを作ったりしたい。・着ぐるみと一緒に子どもたちが地域に出ていくことができないか。・何かみんなで制作できないか。・150周年でも航空写真を撮りたいが。・You-Tube等を利用して、アピールできないか。・子どもたちの思い出に残るようなことをしたい。・子どもたちが地域に出て読み聞かせをしたり、寺子屋で教えてもらうだけでなく子どもたち自身も何か企画したり役立ったりできないか。・ボランティアガイドさんを活用して、教職員、PTAがまず地域のことを知り、子どもたちに伝え、子どもたちが坂本のガイドができないか。

